世界の医療団

スマイル作戦

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

スマイル作戦の目的　－人間としての尊厳と誇りの回復

世界の医療団

「子どもたちに『笑顔』と『生きる希望』を再び」

「スマイル作戦」は、先天的疾患や戦災などが原因で、顔面や身体に著しい奇形・損傷が生じた人々に修復外科手術を行い、彼らに“ごく普通”の社会生活を取り戻そうという医療支援プロジェクトです。彼らの多くは、その視覚的なイメージや古い信仰から起こる偏見・差別のために、通常の社会生活を営むことが困難な状況にあります。彼らとその家族にもう一度笑顔を取り戻すこと。それがスマイル作戦の目的です。

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

形成外科プログラム「スマイル作戦」開始について

世界の医療団

はじまりは1989年のカンボジア。内戦が続いていた同国で医療支援活動にあたっていた世界の医療団のボランティアたちは、現地における形成外科手術の必要性を強く感じました。テレビ放送上で一度呼びかけを行ったところ、200名以上の患者が診察を受けようと病院に詰めかけてきました。そのうち、子どもの割合が実に80%にも達していました。

形成外科医療の知識や経験を持つカンボジア人医療スタッフが皆無の中、口唇口蓋裂、熱傷、腫瘍、また戦災や事故が原因で、顔面に著しい損傷を受けた多くの子どもたちは、それまで何の治療も受けていませんでした。

唇が割れているため、普通の食事をとることができない。火傷による手足の皮膚の萎縮・硬直のために基礎的な動作さえ難しい。そうした身体的苦痛に加え、顔面の奇形のために社会から迫害されたり、古い信仰のために家族からも見捨てられてしまうことさえある子供たち。彼らは“ごく普通”の社会生活さえ送ることがままならない状況にあり、身体的にも社会的にも苦痛を受けているのです。

こうした事態を見た世界の医療団の創設者の一人であるフランソワ・フサディエ医師は、ほかの外科医や麻酔科医、看護師等の支持を受けて、カンボジアのバッタンバンの病院で最初の「スマイル作戦」を実施しました。この最初の修復外科手術が始まりとなり、「スマイル作戦」は急速に拡大しました。

しかしながら、開始から20年以上が経った今も、多くの途上国で形成外科はいまだ十分な治療が受けられない代表的な医療分野です。命に直接かかわることが少ないため、どうしても後回しにされてしまいます。顔や手足の変形に苦しむ多くの子どもたちは笑顔だけでなく、愛情や教育、就労の機会といった多くのものを失いながら今も生きているのです。

フランソワ・フサディエ医師

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

スマイル作戦　これまでの実績

世界の医療団

実　績

1989～2011年　9,202人を手術
うち2011年　17ミッション、手術807件を実施。
派遣されたボランティアは111名
（フランスをはじめとしてドイツ、オランダなど
　各国より参加。うち日本人16名）

活動地

マリ、ニジェール、ベナン、タンザニア、エチオピア、エリトリア、チャド、ルワンダ、マダガスカル、アルメニア、パキスタン、イエメン、
バングラディッシュ、モンゴル、カンボジア、
ラオス　など
2011年現在のミッションはバングラデシュ、ベナン、カンボジア、マダガスカル、モンゴルで行われました。

2012年の活動予定
11ヶ国で計28のミッションを実施予定、
日本を含む4つの事務局から参加予定。

そして、4カ年計画で以下のことを推進していきます。

- ネットワークの他の世界の医療団の参加を促す
- 術後のフォローや活動の質の向上
- ミッション開催国における外科的育成の強化と発展

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

スマイル作戦の活動内容

世界の医療団

手　術

現在、アフリカとアジアの12ヶ国以上で毎年20前後の短期ミッション（8～15日）が実施されています。各ミッションは、外科医、看護婦、麻酔医など専門家5～6人のメンバーで構成され、メンバーの出身地は主にフランス、ドイツ、日本で、全てボランティアです。各地にそれぞれ年2回のミッションを派遣しています。ボランティアが到着する前に、現地パートナーや連絡事務所と密接な連絡を取り、ラジオ、TV、新聞、支援や医療ネットワークを通じての患者の招集と事前登録、物品の購入、手術室や入院設備の整備などが行われます。

この綿密な準備は、その後の医療チームの現地における活動を容易にし、限られた期間中に、より多くの執刀を可能にしています。

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

スマイル作戦の活動内容

世界の医療団

育　成

スマイル作戦の目的は直接手術を行うことだけではなく、現地の外科医や看護師など医療従事者を指導して、外国に頼ることなく自国の患者に一貫して形成外科の手術を実行出来るよう育成することにもあります。育成の内容として先ず必要なことは、形成外科手術によって何が出来るかを示すことです。私たちが活動する国々では、大部分の医師が手術の結果を実際に自分の目で確かめる機会に恵まれていません。次に必要なことは、自ら手術を再現出来るように基礎的な知識とテクニックを理解させることです。

このような指導を毎回継続し、可能な場合には国外での研修を設定します。

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

スマイル作戦で治療する疾病・障害

世界の医療団

スマイル作戦が対象とする疾病・障害は、先進国では発症率が低かったり、発症しても治療が可能なものがほとんどです。治療されないで放置されたり、あるいは間違った治療がなされたため、病気が進行してしばしば重大な結果をもたらしているのが特徴です。

口唇口蓋裂

通常、胎児の初期の発達段階で閉じるべき唇又は口蓋の裂け目が開いたまま生まれてくる状態を指します。日本を含む先進国でも珍しくありませんが、通常乳幼児期に手術を受けるため、傷跡もほとんど残らずに治療することができています。しかしながら、多くの途上国では適切な手術が行われていないばかりか、表情を表しにくいことから奇異に思われ差別の対象とされることも少なくありません。そのためこの症状を持った子供たちは社会から見捨てられ締め出されるという状況に置かれています。また、口蓋裂は自力での食事を困難にし、適切な栄養を摂取が妨げられることから成長への影響も深刻なものです。

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

口唇口蓋裂

世界の医療団

ケース１

手術前

手術後：担当医と

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

口唇口蓋裂

世界の医療団

ケース２

2008年8月マダガスカル　サロニィちゃんの場合

手術前

手術後

1度の手術でここまで綺麗になります。

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

スマイル作戦レポート　2010年8月

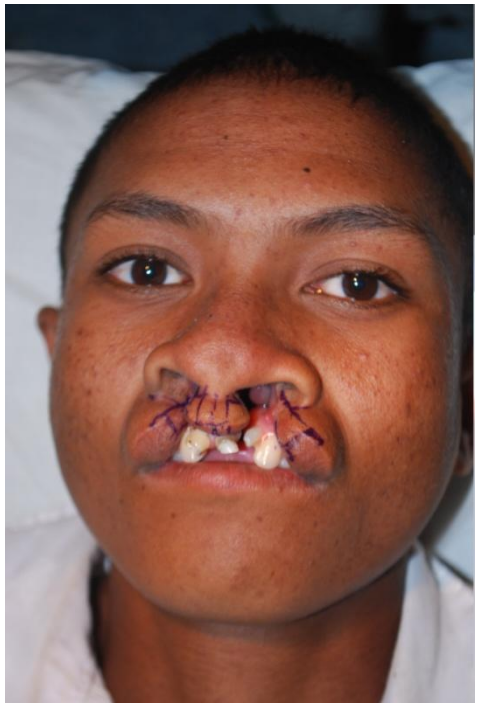
世界の医療団

手　術

2010年8月、日本人3名を含む、計6人のチームでマダガスカルのアンタナナリボで「スマイル作戦」を実施しました。マダガスカルで手術を受けた28名の患者のうち、1人の男の子のケースをご紹介します。

両側の口唇裂の手術を受けました。彼は家族からも見放され、ホームレスとして生きてきたそうです。仲間が「スマイル作戦」のことを聞き、連れてきました。術前はもちろん、術後、傷が治ってからも私たちに一度も笑顔を見せてくれることはありませんでした。長い間、孤独の中で生きてきた彼が患っている傷は口唇だけではなく、心にまでも深く深く及んでいるのです。

モディストのように見た目の傷が癒えても、心に負った深い傷はすぐには癒えないこともあります。すぐに笑顔を見せることのない患者に出会うたび、彼らがこれまでどれほど辛い生活を送ってきたのだろうと思わずにはいられません。だからこそ、私たちは現地に赴くたび、少しでも早く、少しでも多くの人々の苦しみを緩和し、人間の尊厳とともに生きられるよう「スマイル作戦」を続けていくことの必要性を強く感じるのです。



モディストくん　（18歳）

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

少女と母親を救ったスマイル作戦

世界の医療団

カンボジアの少女ミン・スレイ・ピチュは、母親も「クラスでも一番」と自慢するほど愛らしい女の子です。あどけなく笑う彼女の顔に残る古傷は、とても小さくかすかなもので、かつてのことなど想像することもできません。

「この子が生まれたとき、唇が裂けていたんですよ。それを見た私の家族は、『この子はきっと一週間も生きないだろう、病院で他の子どもと取り替えてくるがいいよ』とまで言いました。」

愛情深くやさしい若い母親は、家族の言うことをききもせず、大切に育てていくと決めました。

守り抜いた大切な赤ちゃんとの暮らしはしあわせでしたが、誰も助けてはくれず、苦しみと悲しみの連続でした。「食べ物や飲み物を含ませても、裂けた唇や鼻から出てきてしまったんです」

困り果てた母親は、この病気を治してくれそうな医者を国中くまなく捜しまわりました。そんなある日、彼女はついに希望の光を掴んだのです。

「1998年のことでした。新聞に『スマイル作戦の医師が、無料で口唇裂患者の手術を行います』と書いてあったのです」

そしてその年には最初の手術を受け、翌年同じ病院で2度目の手術を行い、ついに彼女は生まれもったかわいい顔を手に入れたのです。

先天的疾患を持って生まれた子どもたちを苦しめるのは、社会にまかり通る間違った通年でもあります。奇形は呪いであるとさえ思われ、差別は容認されてきたのです。

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

先天性奇形と熱傷後瘢痕拘縮（火傷後のひきつれ）

世界の医療団

先天性奇形

上記の口唇口蓋裂以外にも、身体のあらゆる部位に関して治療を必要とする先天性の奇形がみられます。東南アジアに多い頭蓋顔面奇形（髄膜脳瘤）は、顎顔面専門医と神経外科医から成る高度な技術を持った医療チームが治療にあたっています。

熱傷後瘢痕拘縮（火傷後のひきつれ）

多くは事故による火傷です。なかでも火を起こして食事の準備をするため子どもたちが誤って手や足を火の中に入れてしまったり衣服に火が移り体をまきこむなどの事故が多いです。初めに適切な処置を怠ると、皮膚や筋肉が収縮して癒着し、四肢の動きを妨げたり顔面を不自然に変形させたりします。頭から熱湯をかぶりまぶたが閉じなくなるケース、顎が胸に、両腕が上半身に張り付くケースなど、悲惨な事例も少なくありません。結果、地域社会から差別的な扱いを受けたり、健康面や物理的な面でも日常生活に不自由を伴うことになります。

また、特にアジア・中東のイスラム教圏では、求婚の拒絶に対する復讐、夫から妻への家庭内暴力の延長など、硫酸や塩酸を用いた暴力が頻繁に行われており、深刻な顔面の損傷・屈辱を苦に自ら命を絶ってしまうという悲しいケースもあります。

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

全身火傷の悲劇から、新しい人生を得た

世界の医療団

カンボジアに住む女性、タン・カムさんは、スマイル作戦の初期の患者の一人です。彼女は1990年のある日、恐ろしい悲劇に見舞われました。

「市場で買い物をしていたときに、どこからともなく噴射された大量の硫酸液を全身に浴びてしまったのです。」

まず、近くの病院で手術を受けることになりました。そのあと、カルメット病院に移され、もっとも重症だった目の治療をしました。

そこで、スマイル作戦の外科医に出会ったのです。

事故直後にはまったく動かすことのできなかった全身でしたが、8回もの懸命な手術の結果、右腕と口が動かせるようになったのです。

「これは、私の人生の新しいスタートだと思いました。不幸な偶然に見舞われましたが、幸せな偶然のおかげで、こうして最高水準の手術を受けることができたのですから。」

事故に遭う前の彼女は、元気な看護婦でした。彼女の笑顔に、たくさんの患者が救われてきたのでしょう。

「もう看護師として働くことはできないでしょうが、できる限り他の人と同じように生きる努力を続けていきたいと思っています。」

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

外傷による後遺症　（戦争や事故による傷跡）と腫瘍

世界の医療団

外傷による後遺症　（戦争や事故による傷跡）

スマイル作戦の実施国の中には、戦争や紛争をくぐり抜けた国がいくつかあります。白兵戦、銃弾、地雷、破裂弾の爆発等による肉体的精神的外傷は、身体機能と肢体そのものに深刻な後遺症をもたらしています。また、自動車事故や工場労働における電気関連の事故による深刻な後遺症などのケースも少なくありません。

腫　瘍

腫瘍は放置しておくと無視できない大きさに成長する可能性があります。良性の段階で手術をすれば完治するケースが多く、悪性の腫瘍でも手術で取り除くことが出来、たとえ術後の適切な治療なしには完治が期待できないとしても、快適な生活を続ける可能性が生まれてきます。

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

ノマ

世界の医療団

別名、壊疽性歯肉炎・水癌。健康状態が安定し口腔衛生状態が良好な人であれば通常発病することはありませんが、栄養失調などにより抵抗力の弱い場合に多く、主にサハラ以南のセネガルとエチオピアにはさまれた国々やアジアにも見られます。顔面に損傷を引き起こす壊疽性の感染症で、発症すると口内のバクテリアが細胞を破壊し、頬に穴を開け広げていきます。

初期段階においては抗生物質の摂取、口内衛生と十分な栄養の補給で進行を止めることが出来る一方、適切な治療を施さず悪化すると死にも至る病であり、その数は年間数十万人に上ると言われます。またその症状から、患者はしばしば生命の危険性と同時に社会からの偏見と差別にも晒されています。

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

あるミッションの風景

期間: 2010. 6. 5 ～ 2010. 6. 17

開催地: カンボジア・バッタンバン州立病院

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

ミッション・スケジュール

世界の医療団

6月5日（土曜日）	11:00-15:30	成田発バンコク行きの飛行機で出発
	18:10-19:25	バンコクで乗り継ぎ、目的地近くのプノンペンへ
	現地到着	コサマック病院にて物品確認。世界の医療団　フランスからのチームメイトと顔合わせ・宿泊予定のホテルで夕食
		ホテル　泊
6月6日（日曜日）	7:45	ホテル　発　　コサマック病院に寄り、荷物まとめ
	10:30	プノンペン　発
	16:00	バタンボン　着 バッタンバン州立病院にて荷卸、スタッフに挨拶
	18:00	宿泊予定のホテル 着
6月7日（月曜日）	7:30	院長へ挨拶
	8:00-13:00	診察、手術のスケジューリング
	13:00-14:00	休憩
	14:00-18:00	手術と診療

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

ミッション・スケジュール

6月8日（火曜日） ～ 6月10日（木曜日）	8:00	準備
	9:00-13:00	手術と診療
	13:00-14:00	休憩
	14:00-19:00	手術
6月11日（金曜日）	8:00	準備
	9:00-13:00	手術
	13:00-14:00	休憩
	14:00-18:00	手術　午後は局部麻酔のオペのみ
	18:30	交流パーティー　現地関係者含め約60名の参加
6月12日（土曜日）	8:00-10:00	往診と包帯交換
	10:00～	半休
6月13日（日曜日）		休日

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

ミッション・スケジュール

6月14日（月曜日） ～ 6月15日（火曜日）	8:00	準備
	9:00-13:00	手術と包帯交換
	13:00-14:00	休憩
	14:00-18:00	手術　火曜日は終日局部麻酔のオペのみ
6月16日（水曜日）	8:00	包帯交換 帰国に向けて荷づくりなど準備
	9:00	院長へ挨拶
	10:00	バタンボン　発　途中で昼食
	16:00	プノンペン　着 コサマック病院で在庫整理
	19:00	空港へ
	20:25	プノンペンを発ち、行きと同様バンコクで乗り換え
6月17日（木曜日）	23:50	日本時間08:10に成田へ無事帰国

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

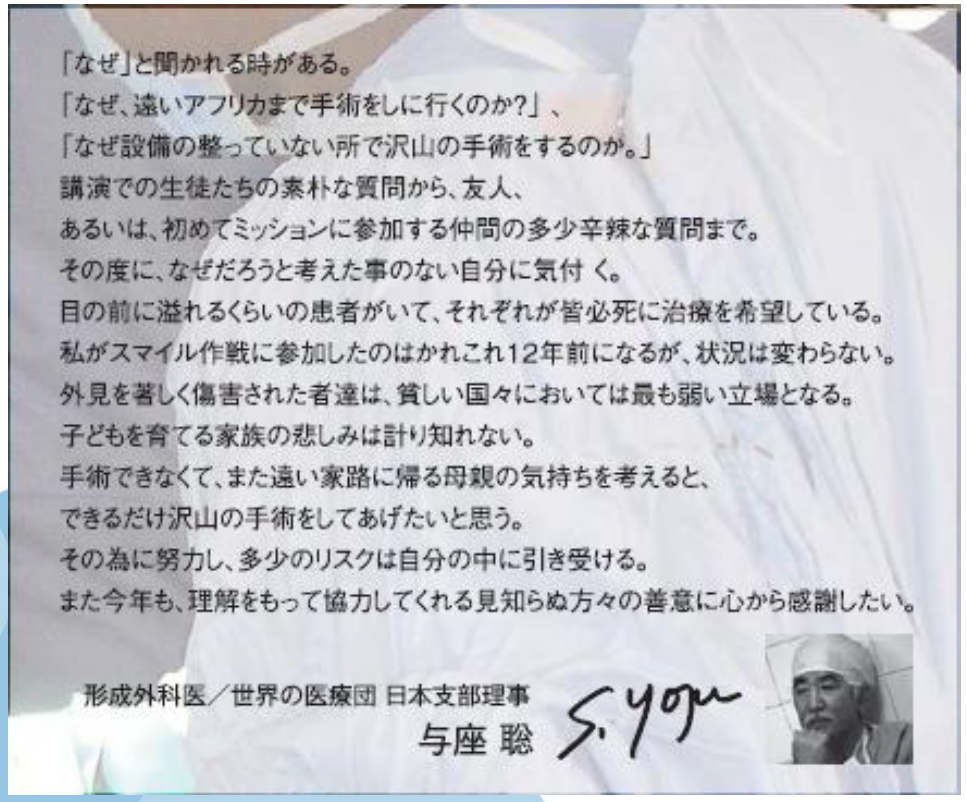
スマイル作戦と日本

1996年以来、このプロジェクトには日本人ボランティアが継続的に派遣されており、これまでにラオス・ルワンダ・ベトナム・ニジェール・カンボジア・エチオピアなどでの活動を展開しています。ボランティアの多くは無償で、自らの休暇を利用して参加しています。

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

①与座聡　形成外科医

「ボランティアは手を抜いていいなんてことは絶対にありません。ボランティアだからこそ、提供する医療に絶対の自信を持ち、手術を受けた子どもたちやご家族が心から笑顔になるような結果か求められるのです」


「なぜ」と聞かれる時がある。
「なぜ、遠いアフリカまで手術をしに行くのか?」、
「なぜ設備の整っていない所で沢山の手術をするのか。」
講演での生徒たちの素朴な質問から、友人、
あるいは、初めてミッションに参加する仲間の多少辛辣な質問まで。
その度に、なぜだろうと考えた事のない自分に気付く。
目の前に溢れるくらいの患者がいて、それぞれが皆必死に治療を希望している。
私がスマイル作戦に参加したのはかれこれ12年前になるが、状況は変わらない。
外見を著しく傷害された者達は、貧しい国々においては最も弱い立場となる。
子どもを育てる家族の悲しみは計り知れない。
手術できなくて、また遠い家路に帰る母親の気持ちを考えると、
できるだけ沢山の手術をしてあげたいと思う。
その為に努力し、多少のリスクは自分の中に引き受ける。
また今年も、理解をもって協力してくれる見知らぬ方々の善意に心から感謝したい。

形成外科医／世界の医療団 日本支部理事
与座 聡 S. Yoza

与座医師は1996年から継続して参加し中心的な役割を担っており、その活躍はテレビ・新聞など各種メディアに数多く取り上げられています。ミッション開催各地から再訪の以来が絶えません。

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

②寺島佐和子　形成外科医

世界の医療団

カンボジアミッションを中心に活躍する寺島医師

「印象的だったのは、患者さんがみんなにこにこしていたことです。診療を待つ時も、呼ばれて入ってくる時も、手術の当日も、いつも、みんなニコニコ。どうしてと聞くと、手術を受けることが嬉しいのだそうです。手術への不安よりも喜びにあふれている患者さんの顔に感動しました。これからもこういう患者さんの期待にこたえていきたいです」

www.mdm.or.jp

世界の医療団（特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
〒106-0044　東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F　TEL:03-3585-6436　FAX:03-3560-8073

世界の医療団

お問い合わせ

世界の医療団 （認定NPO法人）
〒106-0044東京都港区東麻布2－6－10
麻布善波ビル2F
Tel: 03-3585-6436　Fax: 03-3560-8073
E-mail : info@mdm.or.jp
URL : www.mdm.or.jp